



栗原小だより

新座市栗原 1-5-1 ☎042-473-7070

HP <https://e-kurihara-c-niiza.edumap.jp/>



～学校教育目標～
よく考え学ぶ子
心のゆたかな子
たくましい子

令和5年度3月号
令和6年2月29日

令和5年度を振り返って

校長 古澤 健史

【令和5年度を振り返って】

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が、5月8日に感染症の5類へと移行され、社会情勢も大きく変化し、様々な活動が、制限なく実施できるようになりました。3年以上にも渡る感染対策の日々により、我々の考え方や生活様式も大きく変化していたことも実感させられる1年でもありました。

そうした中で今年度、栗原小学校で大事にしてきたのが、全員が顔を合わせて一堂に会する行事や機会です。学校全体での一体感を高めることを大事にしたいと考えました。

2年生から6年生が、栗っ子の仲間入りをする1年生を温かく迎えてくれた「1年生を迎える会」。栗っ子全員が、校庭でおいしいお弁当を食べて、先生たちが出すゲームに盛り上がった「なかよしピクニック弁当」。雷雲を吹き飛ばし、僅か6点差の大接戦、響き渡る運動会の歌と初めて全校で歌う校歌、紅白両軍が力いっぱい頑張ったという清々しい表情の閉会式、感動の「運動会」。インフルエンザの流行で開催が延期になったが、自分以外の学年の歌や演奏をお互いに披露し合い、音楽の楽しさや素晴らしさを感じられた「校内音楽発表会」。コースの沿道が、保護者の皆様や地域の皆様の温かい声援と応援でいっぱいとなる中で、自分たちの持てる力で精一杯駆け抜けた「校内持久走大会」。そして、この1年伝統のタスキを受け、栗小を引っ張ってきた6年生が、1～5年生に「6年生を送る会」で感謝の気持ちと次代を引き継ぐ決意を受け取ります。私は、この1年間栗っ子たちと過ごす中で、学校の良さや素晴らしさ、大事なこと、無くしてはいけないこと、その他たくさんのことを改めて学んだ気がします。

栗っ子たちの活躍を見守り支えていただいた保護者の皆様、地域の皆様、そして教

職員も含め、栗小に関わっていただいたすべての皆様に感謝いたします。



【2/16 ドレミハミルさんによるミニコンサートより】

【節分から多様性を考える】

2月のお話集会で、節分の話をしました。その中で、「鬼」をテーマにお話をしました。鬼は今から1,200年くらい前にさまざまな文化と一緒に中国から入ってきたようです。はじめは、「鬼に出あうと人は病気になると信じられていて」、人をさらったり病気にしたりするからと恐れられていたようです。その鬼についてたくさんの物語が作られました。その1つが皆さんのよく知る桃太郎のお話です。その桃太郎のお話も時代とともに変化し、今では桃太郎は力で鬼を退治するのではなく、大声で鬼を懲らしめ、最後はみんなでご飯を食べて仲良くなって、めでたしめでたしとお話が終わります。

鬼の歴史を調べてみてわかったことは、日本ではこれまで自分たちと同じ人間でも、違う言葉を話す人、食べるものや住むところ、着ているものなど生活の習慣が違う人、意見が合わない人、よくわからない人たちを鬼と呼んで恐れたり、差別して仲間外れにしたり、戦って退治したりしてきてしまったことです。そう考えると私たちが、豆を投げて追い払った鬼はいったい何だろうと子どもたちに投げかけました。自分にとってよくわからない人や意見の合わない人のことを自分たちが鬼にしてしまうとしたら、これはとても恐ろしいことです。節分に出てくる鬼とは一体何かを調べてみた時に、「多様性」について考える機会になりました。